

## 科学技術政策担当大臣等と総合科学技術会議有識者議員との会合 議事概要

- 日 時 平成25年2月7日（木）10：00～10：43
- 場 所 合同庁舎4号館第3特別会議室
- 出席者 伊達副大臣、青木議員、中鉢議員、平野議員、大西議員  
倉持統括官、中野審議官、吉川審議官、山岸審議官

### ○ 議事概要

○大西議員 本日は伊達副大臣がお見えでありますので、冒頭で一言御挨拶を頂きます。

○伊達副大臣 皆様、お早うございます。御紹介頂きました内閣副大臣を務めております伊達忠一でございます。本日は総合科学技術会議、有識者会議にこうしてお忙しいところ御参加を頂きましたことを先ずもって心から厚くお礼を申し上げる次第でございます。

日本経済再生本部等の状況について後ほど報告があるとお聞き致しておりますが、安倍総理、山本大臣から御指示があったように、総合科学技術会議と日本経済再生本部、そして規制改革会議が連携して、日本経済再生に向けての国家戦略を作っていくことが大変重要だと考えております。

また、2つ目の議題で、1月29日に閣議決定を致しました平成25年度予算のうち、科学技術関係予算の概要について、報告されることになっておりますが、重要施策の多くは、アクションプラン等により、総合科学技術会議で議論した上で重点化したものであり、「成長による富の創出」など安倍内閣の柱を実現する為の施策が盛り込まれているところでございまして、これまでの総合科学技術会議のリーダーシップが予算編成に反映されてきたようでありますが、科学技術イノベーションによる日本再生のためのより実効ある司令塔の機能強化になりますように今後とも宜しく議員の皆様のお指導をお願い申し上げます。宜しくお願い致します。

○大西議員 どうも有難うございました。

### 議題1. 日本経済再生本部等の動向について

○大西議員 それでは議題に入ります。1番目の議題は日本経済再生本部等の動向についてです。これについて最初に説明を受けた後、御意見を伺うことにしたいと思います。

<内閣府 杉谷参事官から説明>

○大西議員 有難うございました。何か御質問がありましたらお願い致します。

○中鉢議員 1つだけ確認です。資料1の甘利大臣名の資料には「世界を惹きつける地域資源で稼ぐ」と書かれていますが、どういう内容ですか。少し理解しにくいので、説明頂けますか。

○事務局（杉谷参事官） 例えば、農業の各地域の得意分野等で市場も創造し、世界を惹きつけ、輸出もして稼いでいくというプランだと理解しておりますが、詳しい内容は今後議論されていくと思います。

○中鉢議員 農業というのは日本のことですね。世界を惹きつける地域、世界を惹きつける産物を日本の農業がやろうという内容ですか。それともアジアで、例えばアジアの地域に日本の技術を持っていこうと、こういうことですか。分かりにくい表現なので、事務局からもう少し詳しく説明頂けますか。

○事務局（中野審議官） 杉谷参事官の説明の通り、まだ内容について正式に発表されたものはないのですが、地域のグローバルな競争力をあげるという考え方が入っていて、その為には地域産業の活性化、或いは中小企業の活性化、農業の競争力強化ということが入っていると聞いて

ています。

○中鉢議員 そうすると地域というのは日本の地域、資源というのは日本の資源という意味ですか。

○事務局（中野審議官） 国内の地域です。

○大西議員 資料2の中に「（8）農業政策の推進」と書かれていますが、これが農業についての記述となるのですか。このペーパーは関連している訳ですね。議論の中で出てきたのですか。

○事務局（中野審議官） 資料2は産業競争力会議の当日に甘利大臣の御発言の後、有識者議員が全員発言されましたので、その中から抽出されたものということです。

○大西議員 今のに関連しますが、「第1回産業競争力会議の議論を踏まえた当面の政策対応について」と書かれた総理指示の中に、「攻めの農業政策の推進」という項目がありますけれども、この辺が符合するところですかね。

○中鉢議員 アジア市場を取り込んだと、日本ではなくて日本の技術がそういう成長する両地域で頑張れということを行っているのか、或いは日本に留まって世界に向けて商品を輸出しろと言っているのか、或いはその両方なのか。

○事務局（中野審議官） そこは仰るような議論がございまして、これが少し国内向きに見えるとかいう意見もありますけれども、そこがまさに調整が行われているところで、次回、戦略目標の中で明らかになってくると思います。

○大西議員 クールジャパンというのも関係ありますか。これも日本食を世界に広め、日本食材の海外展開を進めるものですが。

○事務局（中野審議官） クールジャパンは日本の資源をアジアに売り出すものです。

○大西議員 資料1の「世界を惹きつける地域資源で稼ぐ」のところにも関係がありますか。

○事務局（中野審議官） そこに入っているかどうかまだ定かではありません。

○事務局（杉谷参事官） 視点が示されたということで、今後まさに会議で議論し、意見を聞きながら固めていくことになるかと理解しています。

○大西議員 2つの会議を中心に報告をして頂きました。これは報告を受けたということにさせて頂きます。

## 議題2. 平成25年度科学技術関係予算（案）の概要について

○大西議員 それでは、もう1つ報告事項があります。「平成25年度科学技術関係予算（案）の概要について」ですが、説明をお願いします。

<内閣府 鈴木参事官から説明>

○大西議員 この件について、御質問があればお願い致します。

○中鉢議員 アクションプランと重点施策パッケージとの整合性、照合はその通りだと思いますが、アクションプランで外れたとか、重点施策パッケージで外れたものはありますか。出したけど外れたとか。

○事務局（鈴木参事官） 今、集計中でございます、また追って御報告させて頂きたいと思  
います。

○中鉢議員 そこが知りたい、大変重要なことだと思いますので。是非、調べて頂きたいと思  
います。それから、細かい話になりますが。参考までお聞きしたいのですが、4ページの総務省  
のところに、「ビッグデータの利活用の推進」だとか、「ICT海外展開／円滑な情報流通に  
向けた環境整備」がありますが、これらはアクションプランにありましたか。どのような内容の  
項目でアクションプランになっていますか。

○事務局（影井参事官補佐） この資料のつくりとしまして、4ページ以降に掲載した各府省の  
主な施策は、先般、政府予算案が決定された際に、各府省が打ち出している予算施策の柱立て  
に沿った形で取りまとめております。総務省の予算については、この「ビッグデータの利活用  
の推進」という柱の中に、戦略的情報通信研究開発推進制度、いわゆるSCOPEの施策も入  
っております、これがグリーンイノベーションのアクションプランの対象施策になっており  
ます。加えて、「ビッグデータの利活用の推進」の中に、ビッグデータ時代に対応するネット  
ワーク基盤技術の確立等の施策、これが重点施策パッケージの対象ということで、「ビッグデ  
ータの利活用と推進」という大括りの中に、2つの重点化対象施策が入っているというこ  
とでございます。「ICT海外展開／円滑な情報流通に向けた環境整備」については、これも同じ  
ように、この1本の柱立てで記載しているのですが、この中に、1つがスマートグリッドの標  
準化に関する先進的ICT国際標準化推進事業と、戦略的国際連携型研究開発推進事業、これ  
は外国政府との国際共同研究に関する施策ですが、これらの両方入っております、前者の先  
進的ICT国際標準化推進事業がアクションプラン対象施策、後者の戦略的国際連携型研究開  
発推進事業が重点施策パッケージの対象と、このような形になっております。

○中鉢議員 スマートグリッドはグリーンですか、ライフですか、復興ですか。

○事務局（影井参事官補佐） グリーンでございます。

○中鉢議員 お話しされている内容は分かりますが、ビッグデータが実はグリーンだ、ICTの  
開発、海外展開、これもグリーンですということ、どこまでがグリーンなのかということにもな  
りますので。ここをはっきりさせないと国民とコミュニケーションするときに、グリーンやライフ  
を際立たせて見せるメリハリと比べると、ICTの海外展開、ビッグデータというものも大き  
なテーマのように私には思えますので。どの程度反映されたかという議論になった際、タイト  
ルが違ってきていて、コメントのしようがないような状況になるというのを懸念致します。

○青木議員 細かいことになりますが、2ページの平成24年度補正予算と平成25年度当初予算を  
比べると総務省は、24年度補正予算のほうが25年度当初予算より大きくなっていますが、何か  
特別な事業があったのですか。

○事務局（影井参事官補佐） 4ページの主な施策における総務省の欄を御覧頂きますと、例え  
ばこの「ビッグデータの利活用の推進」という中で、25年度当初予算では53億円、その右端に  
ある24年度補正予算でも83億円ということで、これらの予算で施策を一体的に実施するという  
形になっています。その下にある「新世代通信網テストベッド(JGN-X)の着実な構築・運用等」  
についても、当初予算で287億円、それから補正予算では500億ということで、総務省はこの施  
策を実施するにあたり、補正予算でこうした施設整備に資するような予算を前倒しでつけた上  
で、その基盤の上に立って、当初予算においても関連する施策を実施することで、一体的に推  
進しているものでございます。補正予算の額の方が大きくなっているのは、主に、先行実施す  
る新世代通信網テストベッド、JGN-Xに大きな額がついているということでございます。

○大西議員 今の議論で出てきた補正予算との関係ですけれども、結局15カ月予算で見ると。そ  
うするとそれが通常の年度の予算と期間が違うので、非常に比較が難しいということになり  
ます。24年度と25年度が比較出来ないということになって、しかもとにかく24年度が入るもの  
は比較出来にくくなってしまいうので、かなり影響が大きい訳です。3年に亘って比較がうまく

出来ない。だから、何らかの方法でそれを比較する方法を合意して、それを適用してとにかく難しくても比較するようにしないとイケないと思いますが、どういうふうにされようとしていますか。15カ月予算と12カ月予算をどう比較しますか。

○事務局（鈴木参事官） 確かに仰るように、大変難しい。期間も違いますし、24年度のものを見る時に、15カ月予算と比べる時に、23年度の補正予算も結構ありまして、それも前倒しを含んでいたりしますので、そうするとどこまで、4次にわたって23年度の補正予算が組まれていますので、しかも復興という特殊要因も入ってきて、どういうふうに切り出してこの比較の対象を特定するのかと、非常に難しい作業になると思います。

○大西議員 難しい作業で、結局比較というか評価出来ないと、アクションプランの効果があつたのかどうか不明なまま過ぎてしまうということになる訳です。その場合に、先ず項目として、その項目が取り上げられたかどうかという、○か×でチェック出来るようなものと、予算額としてこれだけ要求していたが、これだけに査定されたということで、査定率でどう評価するかというのと両方あると思います。

項目については、補正であれそれは前倒しだと。本予算であれ、両方なければこれは取り上げられなかったということになると思うので、どちらかで取り上げられていけば、取り上げられたということになると思います。一方で、査定については、両方足して合計して考えなければいけないことになるのかもしれませんが、その辺の物差しをある程度用意して、ピタッと評価出来なくてもある程度評価しないと、全くPDCAがきかないという話になってしまうと思います。

○事務局（鈴木参事官） 仰る通り今、集計しているアクションプラン、パッケージの結果を何らかの形で評価をしなければいけないと思います。どのぐらい要求について実際ついたのかとか、そういう視点もあるかと思いますが。実際に補正予算も絡んできますので、簡単なものではないとは思いますが、どの程度の精度で出来るのかというのは検討してみたいと思います。

○中鉢議員 大西議員御指摘の点は大変重要で、第4期の重要なステートメントである5カ年で25兆円、GDPの1%というものに対して、総合科学技術会議が予算措置においてどのような役割を果たしたのかと言われた時に、分かりませんというポジションは許されないと思います。分かるようにして頂きたいと思います。

○大西議員 予算を要求した当人は分かっていると思います。自分が要求したものがどこで、補正で実現されたのか、本予算で実現されたのか。それに即して複数の方法でチェックするということになる。

○中鉢議員 今日の段階だと分かってないのでしょうか。何とも言えないというポジションですか。

○事務局（鈴木参事官） データがまだ集まりきってないので、分かりません。

○中鉢議員 それはまずいと思います。分かるようにして下さい。

○青木議員 中鉢議員や大西議員が仰っていることをもう一回反復するのですが、特にアクションプランは予算編成の方法がいいかどうかというのも今、見直す時期だと思うので、そのためには是非アクションプランの成果も検討出来るようにデータをまとめて頂きたいと思います。

○大西議員 それはいつ頃に、去年だといつ頃になりますか。要するに、各省は分かっている訳ですが、総合科学技術会議は全貌をまだ把握しきれてないという状態です。

○事務局（鈴木参事官） 去年は2月9日に取りまとめてお示ししているという形になっております。

- 大西議員 それより少し遅れる訳ですか。
- 事務局（鈴木参事官） もう2月に入っていますが、出来るだけ早くやりたいと思います。
- 事務局（中川参事官） 昨年は12月末に予算が決まって、2月6日の報告でした。今回1月25日の報告ですので、昨年は1カ月以上かかっているのですが、もう少し早く出来るように是非努力するということでやりたいと思います。かなり個別の予算を遡った分析をしないと行けないので、時間がかかっているということですが、1カ月かかる話ではないと思います。
- 大西議員 政府予算については決まった訳ですが、来年度に向けて色々考えていく時に、なるべく早く今回の反省をして、次の戦略を立てることが大事だと思います。宜しく願います。
- 青木議員 質問があります。5ページの文部科学省の中にある「産学連携による国際科学イノベーション拠点(COI)の構築」についてですが、今まで産学連携というのが沢山あった中で、国際と入っているのは新しいと思いますが、これについて説明して頂けますか。
- 事務局（鈴木参事官） 文部科学省の資料によりますと、今までのものが小ぶりでインパクトが小さかったので、大規模に投資して、世界に誇れるような中核の研究者等の集積になる世界レベルの大規模な拠点を作って、世界レベルの拠点として整備していこうと、そういう趣旨の世界、国際ということのようでございます。
- 青木議員 世界規模というのは連携の中に何か外国の要素が入ることが条件ということなのですか。
- 事務局（鈴木参事官） 国際を要件にしているという感じには見えず、世界と戦えるとか世界に誇るとか、そういうキーワードで説明がされております。
- 大西議員 これは継続ですね。H24年:78億円と書かれている。
- 事務局（鈴木参事官） 全体の大きな枠の中のCOIの拠点形成というのが新規で、プログラムとして一部新規で入ってきている、そういう位置付けでございます。
- 事務局（中野審議官） 先程中鉢議員からお話があったビッグデータの件ですが、6月にまとめて頂いたアクションプランの省エネの重点的取組の記述の中で、情報量等の増大により増え続けるエネルギー消費を根本的に低減する技術というのが書いてありまして、これで読めるようになっているというのが実態です。
- 中鉢議員 何となくグリーンフレーバーをまぶしたビッグデータという気がします。ビッグデータをまぶしたグリーンになるといいのでしょうか。
- 事務局（中野審議官） この記述を入れるかどうかは議論があったところですが、これで読めることになりました。
- 中鉢議員 「課題解決」が打ち出されている中で、このタイトルを見て、何の課題ですかと言われた時に、なかなか結びつきにくいという印象です。内容的には中野審議官が説明されたようなことだと思いますが、多少これから改善の余地はあると思います。
- 大西議員 それでは、2番目の議題、平成25年度の科学技術関係予算の概要について報告を受け、意見交換をしまして、予算についてこれまでのアクションプランと施策パッケージは、どういう成果があったのか、それについてなるべく早い時期に分析をして、来年度に備えるということにしたいと思います。今日の議題は以上でありますので、大臣・有識者会合を終了致します。